

(新規・完成・**主要**) 事業箇所 (直轄・補助) 事業

ふるたさわ
飯豊山系古田沢砂防えん堤の完成
やまがた にしおきたま おぐに
山形県西置賜郡小国町

●安全で安心な地域づくり

事業の概要

荒川左支金目川流域に位置するふるたさわ古田沢は、昭和42年羽越災害時に土石流が発生している土石流危険渓流です。氾濫域には、避難施設（公民館）1戸、民家12戸が存在しています。集落を横断する道路は上流集落に通ずる唯一の道路であるため、土砂災害による直接被害の防止及び孤立化対策として砂防えん堤を整備します。

整備効果

土砂流出を防止することにより、下流の保全対象を守ります。

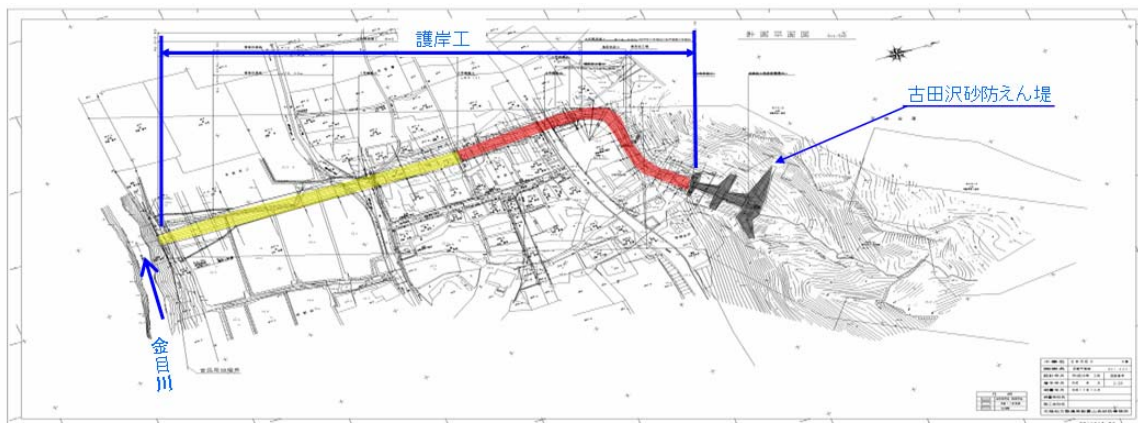
事業着手

平成17年度

平成20年度の事業内容

護岸工を実施し、ふるたさわ古田沢砂防えん堤を完成させます。

飯豊山系砂防管内図



(新規・完成・**主要**) 事業箇所 (直轄・補助) 事業

あ が が わ か り ゆ う き ょ う さ く ぶ 阿賀川下流狭窄部改修（津尻地区）の推進

ふ く し ま か わ め ま あ い づ ば ん げ
福島県河沼郡会津坂下町

●安全で安心な地域づくり

事業の概要

阿賀川下流の狭窄部は、川幅が狭く流下能力が少ないため、古くから会津盆地の水害の原因ともなっており、昭和57年9月の戦後最大規模の洪水では、沿川に大きな被害をもたらしました。

そのため、昭和58年から阿賀川下流狭窄部改修事業に着手し、平成10年度に泡の巻地区改修を完成し、引き続き津尻地区の河道掘削に着手しています。

整備効果

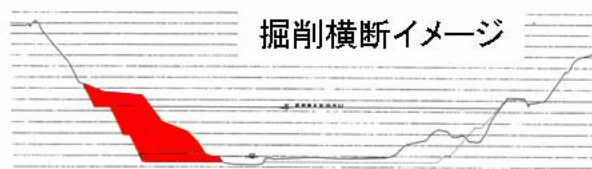
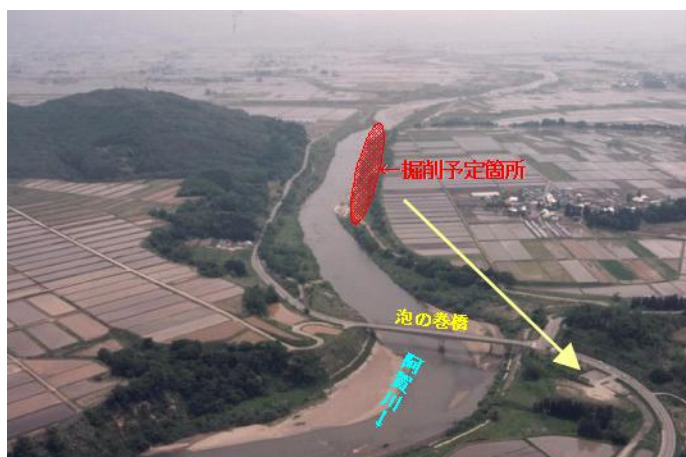
河道掘削を実施し、当該箇所及びその上流域の治水安全度を向上させます。

事業着手

平成11年度

平成20年度の事業内容

引き続き会津坂下町津尻地先において河道掘削を実施し、早期完成にむけて事業を推進します。



(新規・完成・**主要**) 事業箇所 (直轄・補助) 事業

たきさか
滝坂地区地すべり対策事業の整備推進

ふくしま にしあいづ
福島県西会津町

●安全で安心な地域づくり

事業の概要

阿賀野川水系阿賀川に接する滝坂地すべりは、面積約150ha、推定地すべり移動土塊量約4800万 m^3 であり、日本有数の大規模地すべりです。地すべり活動が活発化すると、その移動土砂が阿賀川を閉塞し、沿川に浸水被害などをもたらす懸念があるため、阿賀野川流域の治水上重要な箇所となっています。

このため、平成8年度より直轄事業として着手し、地すべりを発生させる誘因となる地下水を排除するための排水トンネル工や集水井等の整備を進めています。

整備効果

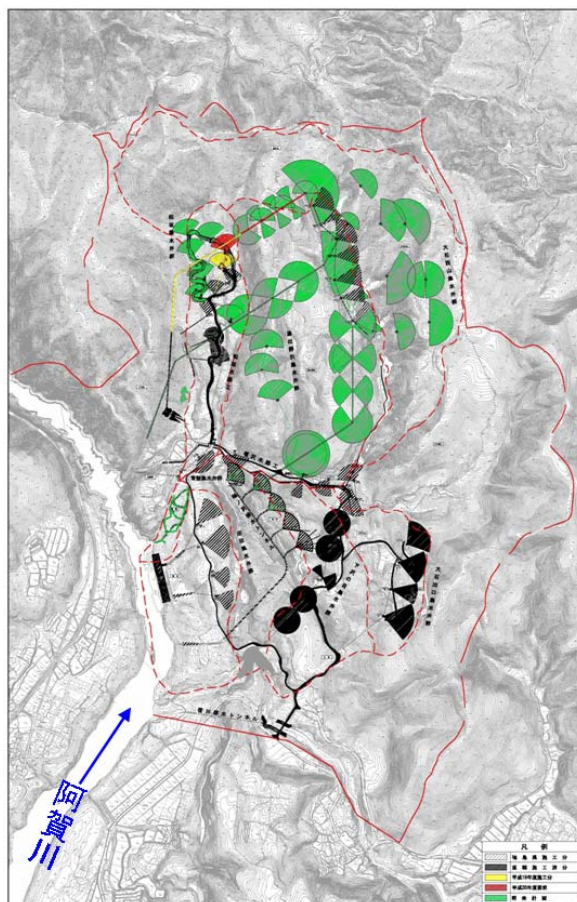
地すべり区域の安全度を向上させることにより、地すべり土塊の移動を抑制します。

事業着手

平成8年度

平成20年度の事業内容

排水トンネル工、集水井工、集・排水ボーリング工を実施します。



滝坂地すべり全体計画

(新規・完成・主要) 事業箇所 (直轄・補助) 事業

ちくまがわ

千曲川土地利用一体型水防災事業に着手

ながの なかの
長野県中野市

●安全で安心な地域づくり

事業の概要

千曲川の立ヶ花下流部は川幅が狭く、無堤・弱小堤が連続しており洪水を安全に流すことができないため、昭和56年、57年、58年と連続した大出水では、大きな浸水被害が生じたことから、同規模の洪水を安全に流すことを目的に、無堤地区対策を計画的に実施しています。

平成16年10月20日の台風23号出水、平成18年7月18日の梅雨前線豪雨出水では、現在無堤地区対策を実施中の箇所において再度浸水被害が発生したことから、再度災害防止に向けて対策を推進します。

整備効果

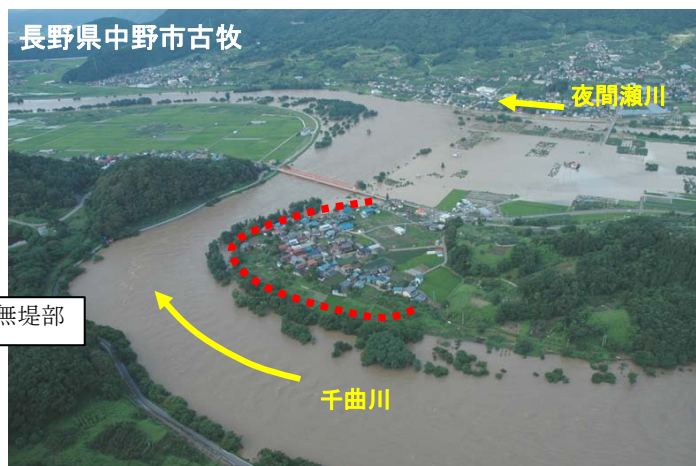
平成16年10月20日の台風23号出水、平成18年7月18日の梅雨前線豪雨出水で浸水した古牧地区において、再度災害の防止を図るため、輪中堤方式による水防災事業により改修し、早期に浸水被害の解消を目指します。

事業着手

平成20年度

平成20年度の事業内容

築堤等を実施し、早期完成にむけて事業を推進します。



H18年7月梅雨前線豪雨
千曲川の出水状況

【撮影：H18.7.19.】

(新規・完成・**主要**) 事業箇所 (直轄・補助) 事業

景勝地「^{かみこうち}上高地」を保全する^{ごせんじゃく}五千尺えん堤群の整備推進
^{ながの まつもと}長野県松本市

- 活力を育む地域づくり
- 安全で安心な地域づくり

事業の概要

五千尺沢は、景勝地「^{かみこうち}上高地」を流れる梓川^{どせきりゅうきけんけいりゅう}の左岸に位置する土石流危険渓流であり、^{かみこうち}上高地観光のメッカである河童橋^{かつぱし}に通ずる遊歩道に面しているほか、付近にはホテルや旅館等の重要な保全対象が多数存在している。

日本有数の観光地である^{かみこうち}上高地には年間200万人もの人々が訪れているが、一方、支川から発生する土石流等による土砂災害も頻発しており、昭和54年には^{ごせんじゃくさわ}五千尺沢の土石流により多数の観光客が下山できず孤立する自体が発生している。

このため、観光客や宿泊施設等を土石流災害から守るため、^{ごせんじゃくさわ}五千尺沢からの土砂流出を防止するための堆積工等の整備を実施しています。

整備効果

土砂流出を防止することにより、下流の観光客や宿泊施設等を守ります。

事業着手

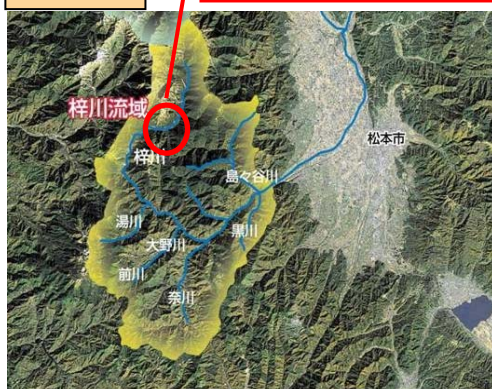
昭和63年度

平成20年度の事業内容

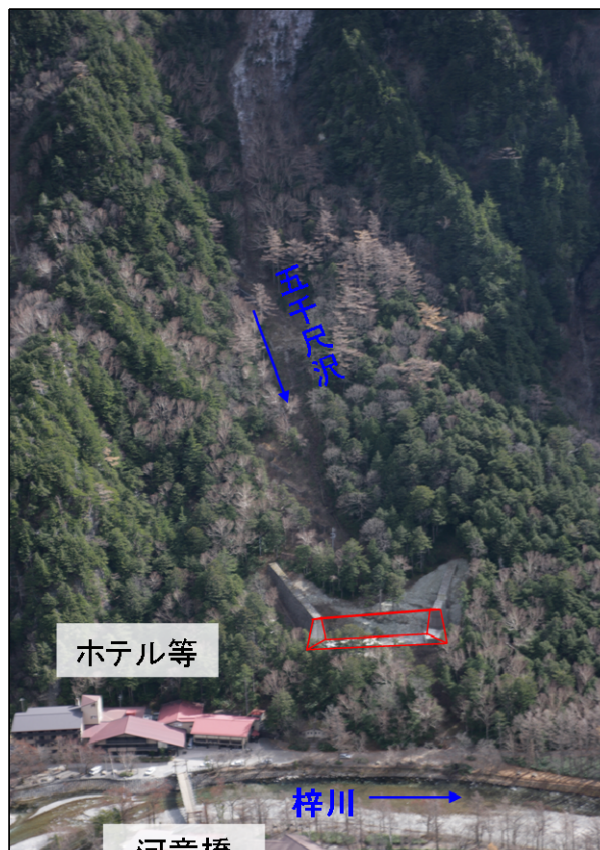
五千尺えん堤工を実施します。

位置図

五千尺えん堤群



遊歩道に流出した土砂



ホテル等

河童橋

(新規・完成・**主要**) 事業箇所 (直轄・補助) 事業

観光振興に資する新穂高溪流保全工の整備推進
しんほたかけいりゅうほぜんこう
ぎふ たかやま
 岐阜県高山市

- 活力を育む地域づくり
- 安全で安心な地域づくり

事業の概要

奥飛騨温泉郷には、年間約 150 万人以上の観光客が訪れます。新穂高地区は、穂高岳の登山口で、新穂高ロープウェイで自然環境を満喫できる観光の拠点としても利用されていますが、近年、上流域が脆弱な地質のうえ多雨多雪の気象条件とも相まって平成 9、10 年と連続して土砂流出が発生している危険な地区です。

また、新穂高地区を流下している蒲田川は、川幅が狭く宿泊施設等の保全対象が河岸に接近しているため土砂流出による被災の危険性が高い地区です。

そのため、地域の山岳景観、親水性等に配慮しつつ、土砂災害に対する安全性の確保を図るため、異常な流出土砂をスムーズに下流に流下させるとともに上流域の流出土砂の抑制を図る土砂災害防止施設（溪流保全工）の整備促進を図ります。

整備効果

異常な流出土砂をスムーズに流下させることにより、観光客や宿泊施設等を守ります。

事業着手

平成 17 年度

平成 20 年度の事業内容

右俣谷下流砂防えん堤の施工を実施し、完成させるとともに、左俣谷においても工事に着手します。

新穂高溪流保全工

